

Ecola

イ・コラ

No. 21

発行 2014年11月15日

皆さんお久しぶりですが、お変わりありませんか？

しのぎやすかった秋も過ぎ去り、冬がすぐそこまで来ているを感じる今日この頃です。
最近では自然災害も多発し、いざという時に子ども達とどう行動するかと考える事が多くあります。
『備えあれば憂いなし』を心の片隅に持ちつつ、今はゆったりイコラを楽しんで下さいませ。



イコラ読まなきゃ
ダメよ～ダメダメ！



NPO 法人和歌山県自閉症協会総会

平成 26 年度 NPO 法人和歌山県自閉症協会総会が、4 月 5 日（土）に、和歌山県勤労福祉会館プラザホール 3F 会議室にて開催されました。



大久保会長の挨拶



来賓の和歌山県福祉保健部
福祉保健政策局障害福祉課
宮腰課長 様



講演会

2014世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間記念講演会
 主催 和歌山県・和歌山県教育委員会
 NPO法人和歌山県自閉症協会

記念講演「自閉症の人を理解し支援する」

～自閉症発達障害の人たちの暮らしを支援する～

寺尾孝士先生（川崎医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科教授）



4月5日（土）13時30分より、和歌山県勤労福祉会館プラザホープ 4階ホールにて、川崎医療福祉大学 医療福祉学部医療福祉学科教授 寺尾孝士先生を招いて、2014世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間記念講演会が開催されました。

自閉症者一人ひとりのできること・興味関心のあること・芽生えに着目して目標を設定し支援を組み立てることの大切さや、「理解しやすく見通しのつく環境」の中「成功体験」を積むことで信頼感や安心感が育っていくことなどについて、丁寧に話していただきました。

和歌山市分会総会

平成26年度NPO法人和歌山県自閉症協会和歌山市分会総会が、5月18日（日）、和歌山県勤労福祉会館プラザホープ 3F 会議室にて開催されました。

総会終了後には、当会顧問である木元市議と古川市議を交えての座談会が開かれました。



来賓の和歌山市障害者支援課
小畑副課長 様



木元市議

京都水族館・梅小路公園バスツアー

6月22日（日）

参加者 43名

京都水族館・梅小路公園にバスツアーに行ってきました。

朝はあいにく雨が降っていましたが、お昼前には止んで、午後は良い天気となりました。京都水族館は、太陽光が入る明るいゾーンが多く、京の棚田をイメージした空間もあり、見せ方が工夫されていました。イルカスタジアムでは、新幹線を背景に見ながらイルカショーを楽しむことができました。



梅小路公園では、チンチン電車に乗ったり、公園の遊具で遊んだりすることができました。梅小路蒸気機関車館で、SLスチーム号に乗った人もいたようです。



参加された岩崎さんの感想です

なかなか日程が合わず、バスツアーには久しぶりに参加させていただきました。

あいにくの雨でしたが、初めての京都水族館に子どもたちは前日からワクワク♪色とりどりの魚や光るクラゲ、イルカショーに大人も癒されました。

また来年のバスツアーも楽しみにしています。



参加された小倉さんの感想です

出発前から降っていた雨もイルカスタジアムでショーを楽しんでいる間に止み、お昼からの行動を思うと、ラッキーな気持ちをイルカへの拍手に込めました。

公園内のレストランが満席だったのでお弁当を買って公園の片隅で食し、チンチン電車の優しい音が心地良く、レストランのお弁当最高でした。

食後に庭園を散歩しました。綺麗なせせらぎの中に置かれた飛石をトントンと渡り、ふかふかの芝生を足裏で感じ、木の橋を渡りながら森林浴を楽しみました。

最後に機関車、デゴイチに乗りました。ポーポッオ～迫力満点気分爽快の一言で心に残る旅になりました。



夏休み親子クッキング

8月19日（火） 中央コミュニティセンター 調理室

参加者 5家族 12名 ポトフ・チキンナゲット・パン・アイスクリーム



☆土師伊織くんの感想です☆



僕は、初めてクッキングに行きました。最初は緊張したけど、やっているうちに慣れました。

メニューは、ナゲットとポトフとガーリックパンでした。僕は、玉ねぎの皮むきと人じんを切りました。あと、ナゲットのお肉をコネました。お母さんが玉ねぎを切ったら、目にしみて涙が出たので「キテレツ大百科」の「お料理行進曲」を歌いました。

料理が出来るまで、お友達は「太鼓の達人」をしたり、ヘッドホンで音楽を聞いたり、ローマ字しりとりをしたりしていました。僕の好きなスーパーでよく流れてる歌を歌っている子もいて楽しくなりました。

料理が出来たらみんなで食べました。ナゲットが一番美味しかったです。おやつにアイスクリームも食べました。



夏休み音楽療法体験

8月11日（月）

北コミュニティセンター 多目的ホール 1

参加者 子ども9名（大人7名）

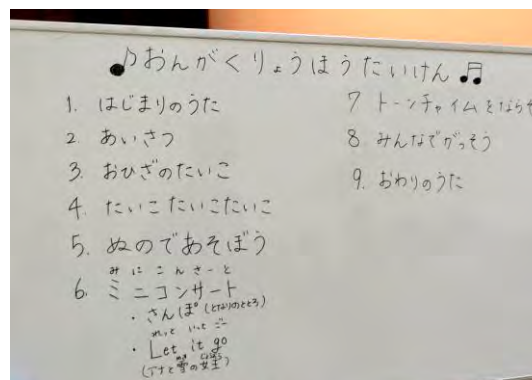
今回初めて、「夏休み音楽療法体験～音楽に親しもう～」が企画されました。

和歌山市内で障がいを持つ人を対象に音楽療法を行っている、音楽療法室 SWE-ET homeの武本友美先生、松井公美先生と学生ボランティアさんにご協力いただき、音楽に合わせて身体を動かして、トーンチャイムや布などを使って音楽に親しむ体験をしました。クラリネットとユーフォニアムの素敵な演奏も聴かせていただき、楽しいひとときを過ごしました。

※音楽療法とは…

『音楽を意味をもって使うことによって、さまざまな機能の改善や維持、情緒の安定などを目的としています。実際に音楽を体験することで、身体的にも心理的にも良い変化を促します。』

（音楽療法室 SWE-ET home）



音楽療法室 SWE-ET homeの先生方の感想です



音楽療法というのは本来は治療的な目的を持って継続的に行うものです。

しかし、今回のように単発でイベント的に行うことも、音楽療法の日を楽しみに待つことや、音楽を通してリフレッシュしたり、自己表現をしたりするよい機会になります。保護者の方も普段みられないお子さんの様子が見られたのではないのでしょうか。

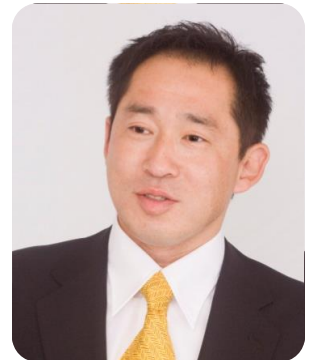
実際にさせていただいて、参加して下さった皆さんが楽しそうに音楽の時間を過ごして下さったようで良かったです。

わたしたちも楽しい時間を過ごさせていただきました。すてきな機会をいただきありがとうございました。

音楽療法士 武本友美
松井公美

“ 雑 感 ”

和歌山県自閉症協会顧問
和歌山市議会議員 古川まさのり



この度、大橋市政も十二年の任期を終え、新しい体制へとバトンタッチしました。和歌山市は、新しいリーダーのもとで、これからどのように変わっていくことができるでしょうか？皆様が政治や行政に期待するのは「速さ、分かり易さ、新しさ」だと思います。

では、「街のリーダーというものに必要な条件とは何でしょうか」と聞かれたら、私は「仕組みを変える力」だと思っています。どんなに良いプランや制度でも、「仕組み」そのものを変えていかなければ機能しません。「仕組み」は社会全体の問題でもあります。今のあり方に問題があるなら、変える努力は必須です。それが政治だと思っています。

ところで皆様は、「上流と下流」というお話をご存じでしょうか。特に医療関係者で知られる表現なのですが…。

「上流と下流」

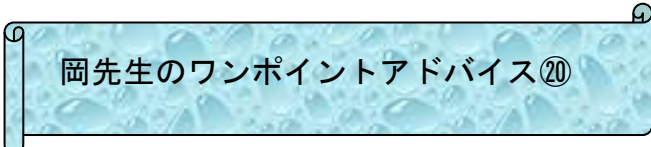
流れの速い川の岸に立っていると、溺れている人の叫び声が聞こえてきました。そこで、私は川に飛び込み、彼に手を差し伸べ、岸まで上げて人工呼吸を施しました。溺れた人が息を吹き返すと、また助けを求める叫び声が聞こえてきました。再び、私は川に飛び込み、彼に手を差し伸べ、岸まで上げて人工呼吸を施しました。溺れた人が息を吹き返すと、また助けを求める叫び声が聞こえてきました。もちろん選択肢はありません。私は川に飛び込み、この繰り返しは果てしなく続けました。私は川に飛び込み、彼らを岸に上げて人工呼吸を施すだけで精一杯でした。分かって下さい。私には、上流に分け入って、どんな地獄が彼らを川に落としているのかを確認する時間なんてなかったのです。

まさに現場の大変さを表現しています。上流を変えて行くのは政治力であり、改善すれば救われる多くの方々があることに對し、リーダーにはしっかりと心ある対応が求められます。

一部マスコミでも報道されておりましたが、尾花新市長は初登庁時、職員への訓示の中で「前例主義に陥らず、市民を第一に考えて」と求め、「国や県が間違っていたらはっきりと言い、市民のための市役所を心掛けて欲しい」と挨拶をされました。

お聞きするところでは、尾花市長は3つの約束「産業を元気に、街を元気に、人を元気に」を柱として44の政策実現に向け、市の幹部職員と夜遅くまで連日会議をしているそうです。その中に「障がい者福祉の推進」も入っているわけですが、具体的にはまだまだ、これからだということです。市長は今スタートラインにいます。それだけに今こそ今後のあり方について現場の声を提案していくチャンスだとも思っています。

市長は、県職出身ということで県との連携が一つの「うり」になっているようです。今までになかったその付加価値を活かして現場の声を受け止め、実行性のある制度を築いてもらえるよう、私もがんばっていきたく思います。次回の対話集会には、是非、尾花市長さんにも参加してもらいたいものですね。



岡先生のワンポイントアドバイス⑳

～自閉症スペクトラムの人の感覚について～

附属特別支援学校 岡 潔

私は、自閉症スペクトラムについて話をさせてもらう際には必ず見え方や聞こえ方の模擬体験を取り入れています。しかし、実際に本人がどう感じているのかは一人ずつ異なりますし、勝手な推測にすぎず、当事者の方からそんなもんじゃねえと言われるかもしれません。新しい診断基準（DSM-V）にも、常同行動（手をひらひらさせるなど）やこだわり（物の位置や順番などゆずれないものをもっているなど）と並んで、感覚過敏や感覚鈍麻も自閉症スペクトラムのポイントとして挙げられています。

自閉症スペクトラムの人の感覚の問題をセンセーショナルに伝えてくれた一冊としてニキ・リンコさん、藤家寛子さんの『自閉っ子、こういう風にできてます！』があまりにも有名です。この中で、こたつに足を入れると足の感覚がなくなるという告白は衝撃的でしたよね。他にも雨の日に傘をさしているところから手でどこから傘なのか判断できなくなるというのもありました。過敏な方の中には、シャワーを浴びるのが痛いという方や陽の光がまぶしすぎて外を歩けないなんていう方もいます。これらは当事者から伝えてもらわないと本当に分からないことですよね。

さらに、自閉症スペクトラムの人の感覚の問題をわれわれに伝わりにくくしているのは、自閉症スペクトラムの人が自分に感覚の問題があることを知らないために、刺激に対してイライラしたり不快に思ったりしてもそれが普通だと我慢している点です。

今では情報も伝わり、自閉症スペクトラムの子が耳ふさぎをしていると聴覚過敏があるんだ、音を調整してあげよう、イヤーマフ（防音用の耳当て）をつけようかと支援が行き届くようになってきました。光がまぶしく感じやすい人は、サングラスを着ける

のも当たり前になってきました。衣服への過敏を感じる人も意外と多く、首すじのタグが嫌なら切ってあげることも一つであるし、シームレス（縫い目がない）の服も購入することができます。部屋などの臭いにも敏感な人がいるので、自分の好きな香り付きのマスクなども利用できます。

感覚過敏は、成長するにつれ薄らいでくる人もいれば、不快な感覚は変わらないという人もいます。また、その日の体調や気分によって我慢できる度量に幅があります。支援の原則としては、慣れさせるよりもまずは遠ざける、調整してあげることではないでしょうか。

もちろん、自閉症スペクトラムの人は自身の感覚の問題に気づきにくいという落とし穴がありますから、自分の感覚の問題について知ってもらうこと、避ける手段を学んでももらうことは重要なことです。身体感覚を認識することは、自己理解の前提となります。

感覚の問題を真っ先に気づいてあげられるのは、一緒にいる時間が多い親御さんではないでしょうか。早く気づいてあげれば、先手を打つこともできますし、子どもの不快感を減らしてあげることに繋がります。

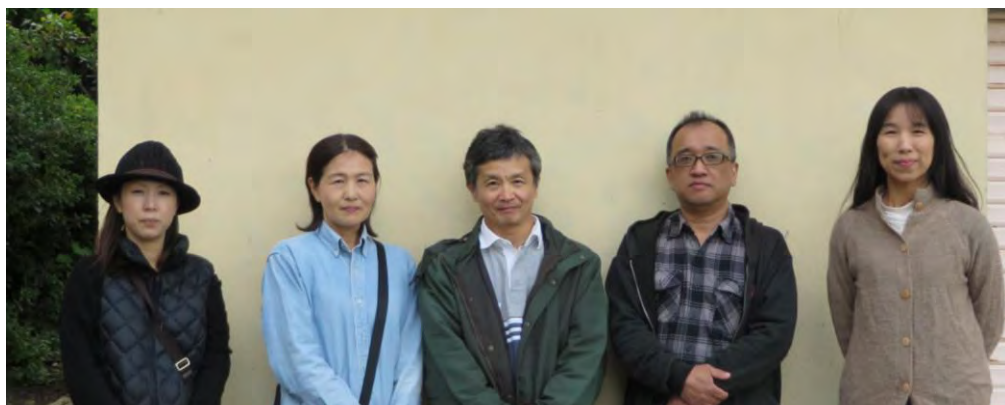
自閉症スペクトラムの子どもの中には、抱っこやボディタッチが苦手な子もいます。個人差はありますが、抱っこやおんぶで戻ってしまいます。親御さんとしてはつらいことですよね。皮膚が敏感なタイプの子は、ほんの少し触られただけで痛いと感じてしまうのです。でも、子どもとの関わり方は無限にあります。手をつなぐことは少しずつできるようになっていきます。また、締め付け機を製作したテンブル・グランディンさんのように、圧迫刺激が

大好きという人もいます。まだ私は手に取っていないのですが、「Tジャケット」なるものは、スマホアプリでジャケットの膨らみを操作し、抱きしめら

れる感覚を作り出すという優れものです。こんなグッズまで出てくるすごい世の中になったんですね。

和歌山市分会役員紹介

今年度役員の改選がありメンバーが少しだけ変わりました。
皆さん、よろしくお願いします！！



新事務局
野村さん

事務局長
江川さん

会長
藤原さん

副会長
奥野さん

新副会長
尾崎さん

事務局から

今年度は、バスツアーを初夏に、バーベキューを秋に開催しましたが、いかがでしたか？
バスツアーの行き先や、新しい行事の希望などありましたら、事務局までご連絡ください。

(事務局) 江川かがり

編集スタッフ： 尾崎富久子・江川かがり・奥野美和・植野比呂美

《発行》イコラ編集局（連絡先）尾崎富久子
e-mail: fukuko2939@gmail.com

※ イコラは Web 版も出しています。ぜひカラーでもお楽しみ下さい。バックナンバーもご覧いただけます。
和歌山県自閉症協会ホームページからどうぞ！！